



Peregrine | AssetCenter
カタログ



© Copyright 2002 Peregrine Systems, Inc.

All rights reserved.

本書に記載されている情報は、Peregrine Systems, Incorporatedが所有し、Peregrine Systems, Inc.の書面による許可なく使用または開示することはできません。本書の一部または全部を、Peregrine Systems, Inc.の事前の書面による許可なく無断で複製することを禁じます。本書に記載されている商品名は、該当する各社の商標または登録商標です。

Peregrine Systems ®およびAssetCenter ®は、Peregrine Systems, Inc.の商標です。

本書で説明されているソフトウェアは、Peregrine Systems, Inc.とエンドユーザ間で締結されるライセンス契約に基づいて提供されます。契約の条項に従って、ソフトウェアを使用する必要があります。Peregrine Systems, Inc.は、本書の内容については一切の責任を負いかねます。また、本書の内容が予告なく変更されることもあります。本書の最終バージョンの日付を確認するには、Peregrine Systems, Inc.のカスタマサポートまでお問合せください。

デモ用データベースと本書の例に使用されている団体名および個人名は架空のものであり、本ソフトウェアの使用方法を説明するためのものです。現在、過去を問わず、実在する団体や個人とのいかなる類似もまったくの偶然によるものです。

この製品はApache Software Foundation (<http://www.apache.org>) により開発されたソフトウェアを含みます。

本書の内容は、ライセンス契約に基づくプログラムのバージョン4.1.0に適用されます。

AssetCenter

Peregrine Systems, Inc.
Worldwide Corporate Campus and Executive Briefing Center
3611 Valley Centre Drive San Diego, CA 92130
Tel 800.638.5231 or 858.481.5000
Fax 858.481.1751
www.peregrine.com



目次

1. はじめに (カタログ)	11
カタログモジュールの対象ユーザ	11
カタログモジュールの使用目的	12
本書の内容	12
2. 概要 (カタログ)	15
カタログの構造	15
モデル	16
カタログ製品	16
セット商品 (バンドル商品)	17
製品の単位とモデルの単位の関連付け	18
カタログリファレンス	19
カタログ管理の例	20
必要条件	20
シナリオ1: AssetCenterでカタログデータをインポートする	20
シナリオ2: カatalogを構成、配布する	21
シナリオ3: カatalogの階層構造	21
3. カatalogの作成 (シナリオ例)	23
製品を作成する	23
製品を作成する	24

製品のオプションを管理する	24
セット商品（バンドル商品）を作成する	26
製品の単位を管理する	27
パッケージを管理する	28
カタログを作成する	29
[全般] タブページに入力する	29
[サプライヤ] タブページに入力する	30
[カスタマイズ] タブページに入力する	30
カタログリファレンスを作成する	30
カタログリファレンスの追加スペックを指定する	31
調達サイクルでカタログを使用する	34
購入依頼でカタログを使用する	34
発注でカタログを使用する	34
4. インタフェース（カタログ）	37
設定	37
カタログ、カタログリファレンスおよび製品の画面	37
全画面に共通のタブページ	38
カタログのリスト	38
カタログリファレンスのリスト	40
カタログ製品のリスト	41
カタログ、カタログリファレンス、製品の論理リンク	44
会社のカタログ	44
モデル	44
購入依頼	44
発注	45
受領 / 返却	45
5. 用語解説（カタログ）	47
製品	47
コンポーネント	48
購入単位	48
パッケージ	48
変換係数	48
追加フォーマットデータ	48
追加スペックの指定	48
オプション	49
オプショングループ	49
構成	49
カタログリファレンス	49
メーカー品番	49
内部参照番号	50
承認	50

分類	50
分類コード	50
6. 参考情報 (カタログ)	51
メニューとタブページ (カタログ)	51
ツールバーのアイコン (カタログ)	54
インタフェースのオプション (カタログ)	54
テーブル (カタログ)	54
テーブル間の依存関係 (カタログ)	55
リストデータ (カタログ)	56
特殊フィールド (カタログ)	57
カウンタ (カタログ)	57
アクションとウィザード (カタログ)	58
AssetCenter Serverモジュール (カタログ)	58
システムデータと分野別データ (カタログ)	59
レポートと書式 (カタログ)	59
自動プロセス (カタログ)	60
API (カタログ)	60
ビュー (カタログ)	61
その他のマニュアル (カタログ)	61



図の一覧表

2.1. セット商品	17
2.2. セット商品における数量	18
2.3. 単位	18
2.4. 製品、カタログリファレンス、およびカタログ間の論理リンク	19
3.1. オプションの論理構造	25
3.2. カタログの概要	29

表の一覧表

3.1. UN/SPSC分類コードの例	32
6.1. メニューとタブページ (カタログ) - 一覧	51
6.2. テーブル (カタログ) - 一覧	54
6.3. テーブル間の依存関係 (カタログ) - 一覧	55
6.4. リストデータ (カタログ) - 一覧	56
6.5. 特殊フィールド (カタログ) - 一覧	57
6.6. カウンタ (カタログ) - 一覧	58
6.7. その他のマニュアル (カタログ) - 一覧	61

1 | はじめに（カタログ）

カタログモジュールの対象ユーザ

AssetCenterバージョン4.0のカタログモジュールは、ベンダ（カタログを発行する企業）とバイヤ（カタログを使用する企業）の両方のニーズに合わせて設計されています。ユーザ企業がベンダであるかバイヤであるかに応じて、企業内の対象ユーザは異なります。

AssetCenterでは、

- カタログ管理とは、製品および製品に関連付けられているリファレンスを管理することのみを指します。
- 調達管理とは、「カタログリファレンス」を購入することを意味します。
- ポートフォリオ管理では、注文品（カタログリファレンス）を受領し、これをポートフォリオ品目に転換します。

ユーザ企業の最終目的に応じて、カタログの定義は異なります。

- 会社がカタログで参照されている製品を販売する場合
カタログ管理者は、バイヤ、プロダクトマネージャ、マーケティングマネージャにカタログを配布します。
- 会社がサプライヤから製品を購入する場合

カタログ管理者は、購買責任者、注文品受領の責任者、インフラストラクチャ管理者、ITメンテナンスの責任者、およびAssetCenterで購入依頼を申請するユーザにカタログを配布します。

購買責任者は、カタログの管理業務（サプライヤの管理、カタログの更新情報の確認とトラッキング、など）を実行します。

まずカタログの使用目的を定義したら、次に管理パラメータを指定します。

- 管理者がカタログ構造を管理します。例えば、管理者はセット商品を作成します。
- カタログモジュールのユーザおよび購買責任者は、カタログリファレンス検索ツールとの閲覧ツールを使用します。

カタログモジュールの使用目的

カタログモジュールは調達モジュールに密接に結び付いており、以下の管理プロセスで行われる調達業務の合理化を図ります。

- ITポートフォリオの管理
- 原料、部品、供給品の管理
- MRO（Maintenance, Repair and Operations）の管理
- サービス（契約、作業指示、プロジェクト）の管理
- 一般資産の管理

本書の内容

本書は、以下の章から構成されています。

- 概要（カタログ）
この章では、カタログモジュールのユーザ、主要用語、および本モジュールの使用シナリオについて説明します。
- カタログの作成（シナリオ例）
この章では、カタログ作成の様々な段階を説明します。
- インタフェース
この章では、カタログモジュールで使用する様々な画面について説明します。
- 用語解説（カタログ）
本章では、カタログ管理の関連用語を定義します。
- 参考情報（カタログ）

本章には、参考情報が記載されています。
AssetCenterソフトウェアの様々なコンポーネントについての説明の他、高度な情報や補足情報も記載されています。

2 | 概要（カタログ）

AssetCenterのカタログモジュールは、調達管理の合理化を図るために設計されています。カタログモジュールは、製品、カタログリファレンスそしてカタログの個別管理を基盤としています。

AssetCenterでカタログ管理を導入すると、以下のことが可能になります。

- 調達プロセスの中央化
- サプライヤとカタログリファレンスのトラッキング
- 調達製品の標準化

カタログの構造

AssetCenterのカタログは、階層構造で構成されています。複数のカタログの構成方法が存在します。カタログの製品は、カテゴリ別、メーカー別、または価格別に分類できます。AssetCenter 4.0のデモ用データベースでは、製品グループ別の構造が使用されています。いずれの方法でカタログが構成されているにせよ、各製品は1つまたは複数のカタログリファレンスに関連付けられます。

 **注意:**

AssetCenterでは、UN/SPSC国際標準コードを使ってカタログ製品を作成し、階層的に分類できます。

調達サイクルの導入開始期間中、カタログはポートフォリオの現状を反映しません。注文品（発注したカタログリファレンス）の受領時に新しいモデルを作成してゆくことで、最終的にカタログがポートフォリオに一致するようになります。従って、ポートフォリオのモデルを基盤とする内部カタログと外部カタログ（例：UN/SPSC規格を使用するカタログ）を区別するようお勧めします。

モデル

モデルは、製品と関連して資産がどのように作成されるかを指定します。

カタログ製品

「製品」は、カタログモジュールに固有の概念であり、ポートフォリオ品目には直接対応しません。

一般的にカタログ製品は、購入依頼を申請するユーザが使用するモデルに対応しています。購入する製品が、会社のモデルのリストに存在しない場合、これを自動的に作成できます。モデルの詳細については、マニュアル『**ポートフォリオ管理**』の「**ポートフォリオ品目**」の章、「**モデル**」の節を参照してください。

製品を受領すると、モデルを基にしてポートフォリオ品目が作成されます。同製品の購入依頼がモデルを基にして作成された場合、このモデルを使って、ポートフォリオ品目が作成されます。

AssetCenterで使用可能なモデルの例は、以下のとおりです。

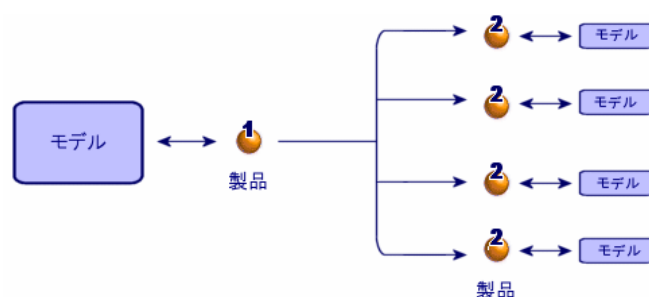
- 消費
- 資産
- ケーブル
- 契約
- 研修
- 作業指示

セット商品（バンドル商品）

セット商品の販売とは、サプライヤが2つ以上の商品を組み合わせて販売する方法を指します。

AssetCenterでは、1つの製品を構成する複数の製品のグループを作成し、AssetCenterデータベースに複数のレコードを同時に素早く作成することができます。

図 2.1. セット商品



セット商品を作成するには、1つまたは複数の製品（2）を、1つの親製品（1）に関連付けます。親製品とそのコンポーネント製品は、それぞれモデルを基にして作成されます。

例：セット商品「Compaq」は、親製品がCPUで、そのコンポーネントはキーボード、マウス、およびモニタという構成で販売されています。

調達サイクル経由でこのセット商品を取得すると、資産「CPU」は、その関連資産「マウス」、「キーボード」、「モニタ」と共に作成されます。

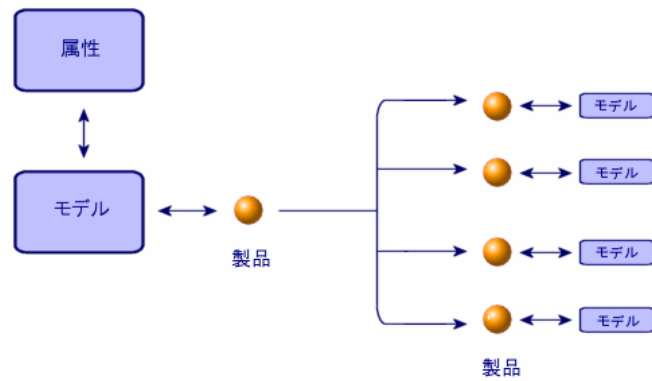
セット商品における数量

セット商品を作成する際に、セット商品を構成するコンポーネントの数量がそれぞれ異なる場合があります。

例えば、プリンタ4台が関連付けられているコンピュータ3台を発注するとします。

この場合、コンピュータ3台とプリンタ4台で構成される製品「バンドル」を作成します。製品「バンドル」のモデルの基になる属性は、何も作成しないように設定されます。

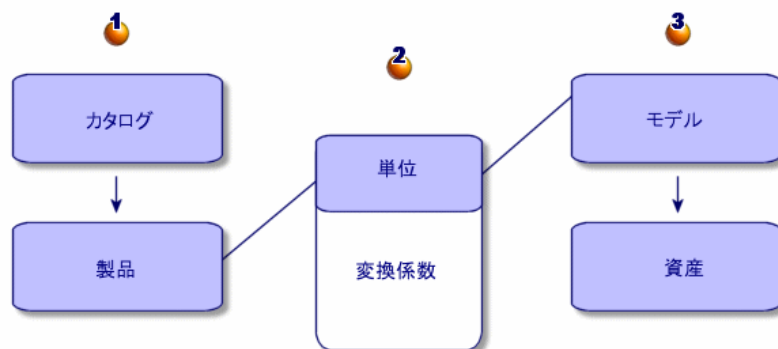
図 2.2. セット商品における数量



製品の単位とモデルの単位の関連付け

AssetCenterでは、ある単位を使ってポートフォリオ品目を管理し、別の単位を使って同品目を発注することができます。

図 2.3. 単位



単位の管理は、製品レベル(1)とモデルレベル(3)で行われます。変換係数を使って、2つの単位を関連付けます(2)。

詳しくは、本マニュアルの「**カタログの作成(シナリオ例)**」の章、「**製品を作成する/製品の単位を管理する**」の節、およびマニュアル『**ポートフォリオ**』の「**ポートフォリオ品目**」の章、「**ロットで単位を使用する**」の節を参照してください。

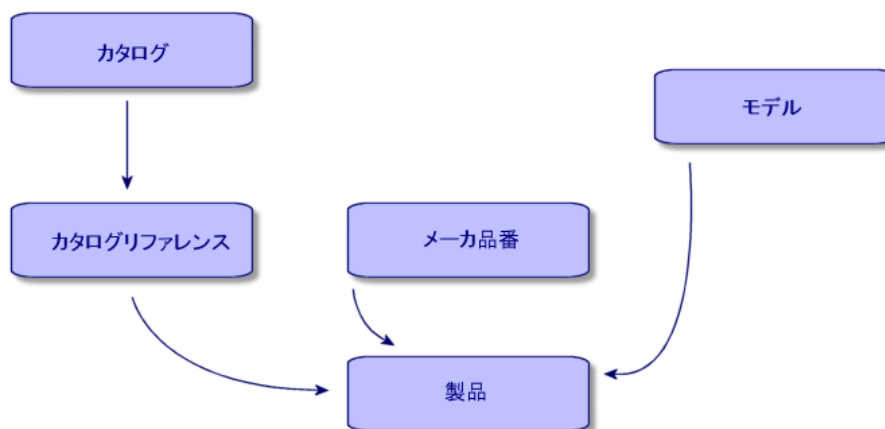
カタログリファレンス

カタログリファレンスは、製品とカタログを関連付けます。1つの製品を1つまたは複数のカタログに関連付けることができます。製品をカタログに関連付けると、リファレンスが作成され、価格が指定されます。製品とカタログ間で可能な組み合わせ数と同じ数だけカタログリファレンスを作成できます。

例えば、製品「インテリマウス」はカタログ「VPC Direct」に関連付けられており、そのリファレンスは「VPC020125540」です。また価格は1800円です。

製品、カタログリファレンス、およびカタログ間の論理リンクは、以下のとおりです。

図 2.4. 製品、カタログリファレンス、およびカタログ間の論理リンク



計算スクリプトとフォーマットデータを使って、カタログリファレンスの価格と参照番号をカスタマイズできます。詳しくは、本書の「**カタログの作成(シナリオ例)**」の章、「**カタログリファレンスを作成する**」を参照してください。

また、使用する分類規格に応じて、カタログリファレンスを分類することも可能です。

カタログ管理の例

必要条件

調達管理の最適化を図るためには、定期的に更新されるデータを使用する必要があります。

外部データをインポートする前に、まず以下の事項を確認します。

- カatalogデータをインポートするために必要なIT設備 / 能力が備わっているか？
- 会社のIT構造が、1つ / 複数のカタログまたは数万個のレコードのインポートをサポートできるか？
- カatalogデータをインポートするために、カタログ作成のスペシャリスト企業と提携する必要があるか？それともAssetCenterでカタログデータを入力する必要があるか？
- カatalogデータのフォーマットは何が使用されるか（テキスト、XML、ASCIIなど）？
- どのデータをインポートするのか？カタログの完全リストが必要か？それとも一部のみが必要か？
- どのようにしてカタログデータを管理するか？カタログデータは、カタログ管理、調達サイクル、ポートフォリオ管理のいずれに関連するのか？

シナリオ1：AssetCenterでカタログデータをインポートする

AssetCenterでは、外部データを統合し、カタログを動的に更新することができます。

ペレグリンシステムズのConnect-Itを使って、外部データの統合を実行します。この統合プラットフォーム（EAI）は、外部データを処理し、AssetCenterデータベースに統合することを可能にします。

Connect-Itを使ってデータをインポートする

カタログデータのソースは複数存在し、これらすべてが同じ規格および同じメディアを使用するとは限りません。

- UN/SPSC国際標準、サプライヤに固有の分類
- 印刷物、CD-ROM、FTP、電子メールなどのメディア
- テキストファイル、XMLファイル、Microsoft Excelファイル、Microsoft Accessファイル、その他のデータベースファイル

上記のパラメータに応じて、各カタログのサプライヤに合ったインポートシナリオを作成する必要があります。

AssetCenterでカタログデータをインポートするには、Connect-Itとそのコネクタ（テキストファイルコネクタ、Eメールコネクタ、XMLコネクタ、データベースコネクタ）を使用します。

オンラインカタログのデータをマイグレーションするためのシナリオ例をご希望の場合は、ペレグリンシステムズのカスタマサポートまでお問い合わせください。

シナリオ2：カタログを構成、配布する

AssetCenterでは、会社の支店ごとに、表示されるカタログを特定できます。

あるカタログの詳細画面の[取引先]タブでは、このカタログにアクセスできる会社のリストが表示されます。

シナリオ3：カタログの階層構造

AssetCenterでは、カタログ製品を階層構造で構成し、カタログリファレンスを分類することができます。

本節では、カタログの構成例を挙げ、その最適な使用方法を説明します。

カタログの作成を開始する前に、AssetCenterにおけるカタログの対象ユーザと使用目的を定義し、以下の事項を考慮する必要があります。

- どの階層システムを使用するか？メーカー別、使用目的別、製品別、それともリファレンス別に分類するのか？
- カatalogの階層構造を細かく構成するのか？それとも大まかに構成するのか？
- カatalogのデータは、参考用のみに作成されるのか、それともAssetCenterで実際に使用されるのか？

カタログの階層構造を定義する

ユーザは、自分でカタログリファレンスの分類方法を指定することができます。このためには、カタログ管理用の分類規格を使って[製品の分類コード]テーブルに入力します。

この結果、分類規格に応じてカタログ情報を容易に読むことができます。カタログ1つにつき1種類の分類規格を使用できます。

例えば、UN/SPSC規格を使用し、この規格に従ってカタログを表示することができます。

AssetCenterでカタログデータを使用する

カタログデータを使用するとは、調達サイクルでカタログデータを使用することを意味します。

AssetCenterでは、主にカタログリファレンスを使って発注を行います。「カタログリファレンスを購入する」と、ポートフォリオに新しい品目が作成されま

す。新しく作成される品目は、モデル経由でカタログリファレンスにリンクされています。

カタログがポートフォリオへもたらす影響

特定のカタログに応じて、ポートフォリオを管理することができます。

このためには、カタログで使用する分類規格を反映する方法で、モデルを作成する必要があります。

3 | カタログの作成（シナリオ例）

ベンダがカタログを発行すると、ベンダの取引先会社は調達サイクルを簡略化することができます。これは、データが自動的に更新され、ツリー構造で論理的に構成されていることを前提とします。

ここでは、ベンダ企業の観点から見たカタログ作成の例を挙げます。ベンダ会社「Hardware Inc.」がどのようにして製品、カタログリファレンスそしてカタログを作成するかを説明します。

注意:

カタログ、カタログリファレンス、および製品は、**[メーカー]**（SQL名：amBrand）テーブルと**[サプライヤ]**（SQL名：amSupplier）テーブルにリンクされています。以下の例を適切に実行するには、これらの2つのテーブルで値を入力する必要があります。

本節のシナリオ例を実行するには、管理者としてAssetCenterのデモ用データベースに接続することをお勧めします。

製品を作成する

この例では、ITハードウェアの販売スペシャリスト企業「Hardware Inc.」が自社のカタログ用に様々な製品を作成する、と仮定します。

作成された製品は、あらかじめ作成しておいたカタログで参照されます。

製品を作成する

コンピュータタイプの製品（例：Macintosh G4）を作成するには、次の手順に従います。

- 1 製品のリストを表示します（**[調達/製品]**メニュー）。
- 2 **[新規作成]**をクリックします。
- 3 **[説明]**フィールドと**[メーカー]**フィールドに入力します。
パイヤ企業の観点からカタログを使用する場合は、**[全般]**タブページの**[モデル]**フィールドに「Macintosh G4」と入力します。
- 4 **[新規作成]**をクリックして確定します。

製品のオプションを管理する

AssetCenterでは、カタログ製品に関連するオプションを管理することができます。

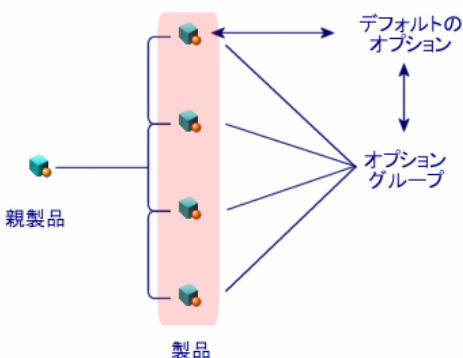
AssetCenterでは、製品にオプション値を設定することができます。製品に関連付けられるオプションの数に制限はありません。

この機能は2つの役割を果たします。セット商品に関連付けられた製品を階層的に分類できます。また、発注時に複数選択肢からオプションを選択できます。

製品の各オプションは、オプショングループに関連付けられています。あるオプショングループで選択できるデフォルトのオプション数は1つに限られています。オプショングループは、必須もしくは不必須に設定できます。

例えば、車を一台購入する場合、テーププレーヤ（標準デフォルトオプション）またはCDプレーヤ（一般に追加料金を払う必要がある）のいずれかを選択できます。

図 3.1. オプションの論理構造



オプショングループを作成する

オプショングループを作成するには、次の手順に従います。

- 1 オプショングループのリストを表示します（**[管理/画面一覧]**メニュー）。
- 2 **[新規作成]**をクリックします。
- 3 **[名前]**フィールドに入力します。
例：「マウス」
- 4 **[選択必須]**（SQL名：bMandatory）チェックボックスをオンにします。
このチェックボックスをオンにすると、親製品の購入を依頼する際にこのオプショングループからオプションを1つ必ず選択するように指定されます。

オプションをオプショングループに関連付ける

オプションをオプショングループに関連付けるには、次の手順に従います。

- 1 製品のリストを表示します（**[調達/製品]**メニュー）。
- 2 オプションとなる製品のレコードを選択します。
例：インテリマウス
- 3 **[全般]**タブページで**[オプション]**チェックボックスをオンにします。
- 4 **[オプショングループ]**リンクに値を入力するかまたはリストからオプションを選択します。
例：「マウス」リンクを選択します。
- 5 **[変更]**をクリックします。

オプション管理の例

ここでは、製品「DeskPro 4000S」の2つのオプショングループの例を挙げます。

- オプショングループ「マウス」（標準マウスと赤外線方式のマウスから選択）
- オプショングループ「CDレコーダ」（8x CDレコーダと16x CDレコーダから選択）

あるPCにマウス2つがオプションとして関連付けられている場合、以下のように管理されます。

- 製品「インテリマウス」を選択します。
この製品は、親製品「Deskpro 4000S」のデフォルトのオプションです。【オプション】と【デフォルトのオプション】チェックボックスが選択されています。この製品は、オプショングループ「マウス」に属します。
- 製品「赤外線方式のインテリマウス」を選択します。
この製品は、親製品「Deskpro 4000S」のオプションです。【オプション】チェックボックスが選択されています。この製品は、オプショングループ「マウス」に属します。

上記のマウス2つは、同じオプショングループに属しています。1番目のマウスがデフォルトのオプションであるのに対し、2番目のマウスは、有料のオプションです。

注意:

オプショングループが必須（【選択必須】（SQL名：bMantory）チェックボックスがオン）でない限り、オプショングループでデフォルトのオプションを選択する必要は必ずしもありません。

あるオプショングループで選択できるデフォルトのオプションの数は1つに限られています。

セット商品（バンドル商品）を作成する

以下の手順に従って、コンピュータ、プリンタ、スキャナから構成されるセット商品「Compaq Deskpro 4000S」を作成します。

- 1 製品のリストを表示します（【調達/製品】メニュー）。
- 2 セット商品を構成する製品を作成します。
 - 1 製品「Deskpro 4000S」を作成する
 - 【新規作成】をクリックします。
 - 【説明】フィールドと【メーカー】フィールドに入力します。

- **【新規作成】**をクリックして確定します。
- 2 製品「LaserJet2100プリンタ」を作成する
 - **【新規作成】**をクリックします。
 - **【説明】**フィールドに「LaserJet2100」と入力し、**【メーカ】**フィールドに入力します。
 - **【親レコード】**フィールドで、製品「Deskpro 4000S」を選択します。
 - **【新規作成】**をクリックして確定します。
 - 3 製品「Agfa DuoScan Hidスキャナ」を作成する

上記のプリンタの作成方法と同じ手順で作成します。

これで親製品「DeskPro 4000S」とそのコンポーネント（プリンタとスキャナ）から構成されるセット商品が作成されました。

セット商品における数量

セット商品を作成する際に、セット商品を構成するコンポーネントの数量がそれぞれ異なる場合があります。

詳しくは、「**概要（カタログ）**」の章の「**セット商品における数量**」を参照してください。

製品の単位を管理する

AssetCenterでは、ある単位を使ってカタログ製品を管理し、別の単位を使って同製品をポートフォリオで管理することが可能です。

製品で定義される変換係数を使って、2単位を関連付けます。

詳しくは、マニュアル『**ポートフォリオ**』の「**ポートフォリオ品目**」の章の「**ロットで使用する単位**」の節を参照してください。

ポートフォリオ品目の単位を設定する

ポートフォリオ品目の単位は、ポートフォリオ品目のモデルのレベルで設定されています。

モデルの単位を設定するには、モデルの属性が以下の条件を満たしている必要があります。

- ポートフォリオ品目を作成するように設定されている。
- 管理条件が、**【資産タグ】**または**【個別管理しない】**に設定されている。

ポートフォリオ品目の単位を定義するには、モデルの詳細画面にある**【使用単位】**フィールドで希望する値を選択します（リットル、トン、等）。

製品の単位を設定する

製品の単位を設定するには、次の手順に従います。

- 製品のレコードを1つ選択します。
- **【取得】**タブページの**【購入単位】**フィールドに希望する単位を入力します（リットル、トン、など）。
- 確定します。

変換係数を定義する

変換係数は、製品の購入単位とポートフォリオ品目の使用単位の割合比率を定義します。

この変換係数の単位は、モデルの詳細画面の**【全般】**タブページで指定した単位に当たります。

【購入単位】フィールドに値を入力すると、**【変換係数】**フィールドは自動入力されます。自動入力されない場合は、手動で変換係数を入力します。

パッケージを管理する

AssetCenterでは、パッケージ売りの製品を管理することができます。パッケージを発注し、受領すると、作成されるポートフォリオ品目は特定の方法で処理されます。

パッケージ販売とは、同一の製品をまとめて売る販売方法を指します。

製品の単位が指定されていない場合は、パッケージに含まれる品数を指定します。例えば、モニタ用のクリーナーは、6本単位で販売されています。

製品の単位が指定されている場合は、パッケージに含まれる品数を指定し、これに加えて単品の内容量を指定します。例えば、製品「モニタ用のクリーナー」は6本単位でまとめ売りされており、クリーナー1本の内容量は100ミリリットルです。

注意:

ある製品がパッケージで販売されることを指定し、単位を指定すると、調達サイクルの動作が変更され、ポートフォリオ品目の管理と製品管理に違いが生じます。

例えば、6本入りの製品を1つ購入するよう依頼すると、6本発注することになります。

例えばセメントの場合、調達サイクルでセメントを購入する時は単位「トン」を使用し、ポートフォリオでは50kg入りの袋単位で管理します。

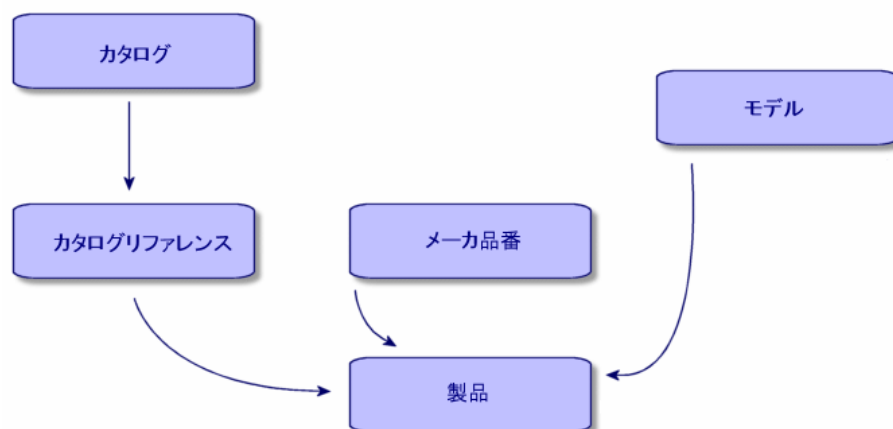
パッケージ「モニタ用クリーナー」を定義するには、次の手順に従います。

- 1 製品「モニタ用クリーナ」を作成します。
 - 2 **【取得】**タブページの**【購入単位】**フィールドに「ミリリットル」と入力します。
 - 3 **【取得】**タブページで、**【パッケージ】**オプションを選択します。
 - 4 **【数量】**フィールドに「6」と入力します。
 - 5 **【内容量】**フィールドに「100」と入力します。
- この例では、パッケージの単位がポートフォリオで使用する単位と異なります。

カタログを作成する

AssetCenterのカタログは、製品リファレンスをまとめています。まずカタログを作成してから、次にカタログリファレンスをカタログに追加します。

図 3.2. カタログの概要



カタログを作成するには、まずカタログの詳細画面の**【全般】**タブページに入力し、次にこのカタログにデフォルトで関連付けられるサプライヤを選択します。

【全般】タブページに入力する

- **【調達 / カタログ】**メニューを使用して、カタログのリストを表示します。
- **【新規作成】**をクリックします。

- **【名前】**、**【通貨】**フィールド（必須）に入力し、必要に応じてオプションフィールドにも入力します。
- **【作成】**をクリックします。

[サプライヤ] タブページに入力する

このタブページでは、カタログに関連付けられているサプライヤ（複数可）が表示されます。このカタログを調達サイクルで使用するには、少なくともサプライヤを1つ選択する必要があります。

カタログに関連付けるサプライヤ（1社または複数）を追加し、必要に応じて**【デフォルトのサプライヤ】**フィールドに入力します。

[カスタマイズ] タブページに入力する


カスタマイズを使って、価格計算またはカタログ計算を自動化できます。カスタマイズ情報とは、主に追加フォーマットデータに関連付けられた計算スクリプトのことを指します。

詳しくは、本章の「**カタログリファレンスの追加スペックを指定する**」の節を参照してください。

カタログリファレンスを作成する

製品をあるカタログに関連付けると、カタログリファレンスが作成されます。この例では、AssetCenter 4.0と共に提供されるデモ用データベースのカタログを使用します。

カタログリファレンスを作成するには、次の手順に従います。

- 方法1
 - 1 カatalogのリストを表示します。
 - 2 カatalog「Computinfo 2002」を選択します。
 - 3 **【リファレンス】**タブページで、をクリックして選択したカタログに製品を追加します。
 - 4 表示される画面で、ドロップダウンリストまたはコンテキストリンクを使って、追加する製品を選択します。
 - 5 **【製品】**フィールド（必須）に入力します。
【参照番号】フィールドには、製品の名前が自動的に入力されますが、これは必要に応じて変更できます。

- 6 必要に応じて、[価格]、[有効期間の開始日]、[有効期間の終了日]、[承認] フィールドなどのオプションフィールドに入力します。
 - 7 [追加] ボタンをクリックします（複数のカタログリファレンスを作成する場合は、[追加（複数）] ボタンをクリックします）。
- 方法2
 - 1 カタログリファレンスのリストを表示します。
 - 2 [新規作成] をクリックします。
 - 3 参照する製品を選択します。
 - 4 [カタログ] フィールドと [参照番号] フィールドに入力します（必須）。

[カタログ] フィールドに特定のカタログを入力すると、製品はこのカタログに関連付けられます。

[参照番号] フィールドには、製品の名前が自動的に入力されますが、これは必要に応じて変更できます。
 - 5 必要に応じて、[価格]、[有効期間の開始日]、[有効期間の終了日]、[承認] フィールドなどのオプションフィールドに入力します。
 - 6 [作成] ボタンをクリックします（複数のカタログリファレンスを作成する場合は、[作成（複数）] ボタンをクリックします）。

カタログリファレンスの追加スペックを指定する

追加スペックを指定すると、価格計算またはカタログリファレンス計算を自動化できます。

カタログ価格を計算する

カタログ価格を計算するには、[追加フォーマットデータ] フィールド（[カスタマイズ] タブ）に入力する必要があります。このフィールドに入力される値は、選択する数量に応じて価格を計算するスクリプトにより処理されます。このカタログリファレンスを発注する場合、選択する数量に応じて価格が変わります。

選択基準に応じてカタログリファレンスと価格を計算する

特定の条件に応じて、カタログ価格とカタログリファレンスを計算するには、[追加フォーマットデータ] フィールド（[カスタマイズ] タブ）に入力する必要があります。このフィールドに入力される値は、複数の基準（例：色とサ

イズ) に応じて価格とカタログリファレンスを計算するスクリプトにより処理されます。

このカタログリファレンスを発注する場合、色とサイズに応じて価格とカタログリファレンスが変わります。

分類規格

特定のカatalogで使用する分類規格を指定できます。

一般的に、Connect-It EAIにより使用規格と分類システムが入力されます。

Connect-Itは、外部カタログのデータを獲得し、AssetCenterデータベースにデータを入力します。

UN/SPSC規格について

UN/SPSC規格とは、「United Nations/Standard Product and Services Classification」の略称で、製品やサービスを分類するための国際分類コードです。

UN/SPSC分類コードは、4レベルで構成されています。

表 3.1. UN/SPSC分類コードの例

UN/SPSCレベル	UN/SPSCコード	UN/SPSCの内容
2桁	43000000	通信、IT機器、周辺機器、コンポーネント
4桁	43170000	ハードウェア
6桁	43172200	インプット用周辺機器
8桁	43172205	コンピュータのマウス

UN/SPSC規格を使ってカタログを管理すると、以下のことが可能になります。

- 製品 / サービスの複数のカタログを自動的に集結できる。
- 製品またはサービスを再構成できる。
- 特定のレベルに応じて、取得した製品 / サービスを表示できる。
- オンライン調達の手順を簡略化できる。

分類規格を設定する

分類規格を設定するには、以下の3つの手順に従います。

1 分類規格を定義する

- **[調達 / 分類コード]**メニューを使用して、分類のリストを表示します。
- **[分類]**フィールドに入力します。

例えば、「UN/SPSC」と入力します。

- 「UN/SPSC」をリストに追加するかどうかを確認するダイアログボックスが表示されたら、**[はい]**をクリックします。

- **[コード]**フィールドに入力します。

例えば、「0000001」と入力します。

- 必要に応じて、**[タイトル]**フィールドに入力します。
- **[追加(複数)]**ボタンをクリックします。
- 上記の手順を繰り返し替えし実行して2つ目のコードを作成します。2つ目のコードが最初のコードのサブコードである場合は、**[親コード]**フィールドに入力します。

例えば、コード「0000010」の親コードは「0000001」です。

- 上記の手順を繰り返し替えし実行して、必要な数だけ分類コードを作成します。

2 カタログの画面で分類規格を入力します。

カタログの詳細画面の**[分類]**フィールドで、上記で入力した分類規格を選択します。

3 カタログリファレンスの詳細画面で、上記で設定した分類コードを入力します。

- カタログリファレンスを選択します。

例えば、カタログリファレンス「R01-01」を選択します。

- ドロップダウンリストを使って、**[分類コード]**フィールドに入力します。

例えば、コード「0000001」を使用します。

- **[変更]**をクリックします。
- 分類する必要があるカタログリファレンスの詳細画面で、上記の手順を繰り返し実行します。

カタログリファレンスを特定のモデルに関連付ける場合、分類コードのリスト(**[調達/分類コード]**メニュー)の**[モデル]**フィールドで対応する値を選択します。



注意:

ここで説明した方法は、少数のカタログリファレンスを分類する場合のみに使用することをお勧めします。大量のカタログデータをインポートする場合は、Connect-Itのシナリオを使用するか、またはペレグリンシステムズのカスタマーサポートまでお問い合わせください。

調達サイクルでカタログを使用する

調達サイクルでは、購入の依頼時と発注明細の作成時に、カタログを使用します。

購入依頼では、通常モデルを使用しますが、カタログリファレンスを使用することも可能です。

発注では、主にカタログリファレンスを使用します。

購入依頼でカタログを使用する

購入依頼に関する情報については、AssetCenterのマニュアル『調達』を参照してください。

購入依頼でカタログリファレンスを表示するには、次の手順に従います。

- 1 新しい購入依頼を作成します。
- 2 **【明細】** タブページで、（購入）依頼明細を追加します。
- 3 表示される画面の **【カタログリファレンス】** フィールドから、カタログリファレンスのリストにアクセスします。
- 4 **【追加】** ボタンをクリックします（複数のカタログリファレンスを追加する場合は、**【追加（複数）】** ボタンをクリックします）。

注意:

依頼品が複数のサプライヤのカタログで参照されている場合、サプライヤの数と同じ数だけ発注を作成できます。

発注でカタログを使用する

発注に関する情報については、AssetCenterのマニュアル『調達』を参照してください。

発注を作成するには、承認された購入依頼を使用する場合と、これを使用しない場合があります。ここでは、両方の場合を説明します。

発注ウィザードでカタログを使用する

AssetCenterでは、発注ウィザードを使って承認済みの依頼から直接発注を行うことができます。

発注ウィザードからカタログリファレンスにアクセスするには、次の手順に従います。

- 1 承認済みの依頼を選択し、**【発注】**ボタンをクリックして発注ウィザードを起動します。
- 2 **【カタログまたはサプライヤを指定する】**オプションを選択します。
- 3 カタログ内で実行する検索の種類を選択します（カタログの名前別、またはサプライヤの名前別）。
 - サプライヤ別に検索する場合、AssetCenterは**【会社】**（SQL名：amCompany）テーブルで、選択されたモデルに関連付けられているサプライヤを検索します。
 - カタログ別に検索する場合、AssetCenterは**【カタログ】**（SQL名：amCatalog）テーブルで、選択されたモデルに関連付けられているカタログを検索します。**【デフォルトのサプライヤを使用する】**オプションを選択して、検索条件を絞ることもできます。
- 4 依頼に関連付けるサプライヤまたはカタログを選択し、**【次へ】**をクリックします。

依頼に関連付けられていない発注

調達サイクルでは、依頼に関連付けられていない物件を発注 / 受領し、これに対応するポートフォリオ品目を作成することはできません。

しかし、発注を作成するためにあらかじめ依頼を作成する必要は必ずしもありません。カタログリファレンスを使って、直接発注を作成することもできます。

発注をサプライヤに送信する際に、以下の事項を念頭においてください。

- 発注明細にモデルが関連付けられている場合、発注に対応する依頼を作成する必要があります。
- 発注明細にモデルが関連付けられていない場合、発注を作成することはできませんが、受領時に資産は作成されません。

発注からカタログリファレンスにアクセスするには、次の手順に従います。

- 発注を作成します。
- **【明細】**タブページで、発注明細を追加します。
- 表示される画面の**【カタログリファレンス】**フィールドからカタログリファレンスのリストにアクセスします。
- **【追加】**ボタンをクリックします（複数のカタログリファレンスを追加する場合は、**【追加（複数）】**ボタンをクリックします）。

各発注で指定できるサプライヤ数は1つに限られています。従って、1つの発注で2つの異なるサプライヤを使用することはできません。

発注を通常の調達サイクルに統合するには、**【依頼】**ボタンをクリックして、発注に関連付けられた依頼を作成します。

セット商品（バンドル商品）を発注する

セット商品を作成するには、複数の製品を1つのカタログリファレンスに関連付けます。

セット商品を構成する各製品に対して、カタログリファレンスが関連付けられています。

カタログのオプションを発注する

発注ウィザードでは、特定の製品にデフォルトで関連付けられているオプションを発注できます。

デフォルトのオプション以外のオプションを発注する場合は、別の依頼明細と発注明細を作成する必要があります。

注文品を受領する

依頼または発注の内容を指定する際には、依頼明細または発注明細を作成します。

それぞれの発注明細は、その受領時にポートフォリオ品目を作成します。

発注にモデルが関連付けられていない場合、AssetCenterはユーザにモデルを作成するかどうかを確認してきます。モデルの作成に関する詳細については、マニュアル『**ポートフォリオ**』を参照してください。

UN/SPSC（United Nations Standard Products and Services Codes）規格を使用する場合、AssetCenterはこの規格に従って発注に関連付けられているモデルを入力します。


4 | インタフェース (カタログ)

設定


カタログ機能を使用するためには、まずポートフォリオモジュールを起動する必要があります。

カタログ、カタログリファレンスおよび製品の画面


カタログのリストを表示するには、以下の方法のいずれかを実行します。

- [調達 / カタログ] メニューを選択します。
- ツールバーで  をクリックします。

カタログリファレンスのリストを表示するには、以下の方法のいずれかを実行します。

- [調達 / カタログリファレンス] メニューを選択します。
- ツールバーで  をクリックします。

製品のリストを表示するには、以下の方法のいずれかを実行します。

- [調達 / 製品] メニューを選択します。
- ツールバーで  をクリックします。

全画面に共通のタブページ

以下のタブページは、カタログ画面、カタログリファレンス画面および製品画面のすべてに共通のタブページです。

[履歴] タブ

詳しくは、マニュアル『はじめに』を参照してください。

[書類] タブ

このタブページでは、カタログに関連付ける書類を指定します。

書類をカタログに関連付けるには、次の手順に従います。

- [ファイル]フィールドにファイルのパスを入力してから、[フォルダ]アイコンをクリックします。
- [内容]フィールドと[日付]フィールドは、自動的に入力されます。
- [カテゴリ]フィールドには、文書が属するカテゴリ（請求書、契約、など）を入力します。
- 必要に応じて、[コメント]フィールドに入力します。

カタログのリスト

選択または作成するカタログのレコードでは、以下の必須フィールド2つとオプションフィールド1つに入力します。

- [名前]フィールド：カタログの名前を入力します。
- [通貨]フィールド：カタログで使用する通貨を入力します。
- [説明]フィールド：カタログの説明を入力します。

カタログを階層構造で表示することはできません。

各カタログレコードの詳細画面は、7つのタブページから構成されています。

- 全般
- リファレンス
- 取引先
- サプライヤ
- カスタマイズ
- 履歴
- 書類

[全般] タブページ

このタブページは以下の情報を含んでいます。

- **[有効期間の開始日]** フィールド：サプライヤが配布するカタログの有効期間の開始日を入力します。
- **[有効期間の終了日]** フィールド：サプライヤが配布するカタログの有効期間の終了日を入力します。
- **[ソース]** フィールド：カタログのデータソース（電子メール、FTPなど）を指定します。
- **[前回の更新日]**：外部プロセスを使って実行した前回のカタログのデータ更新の日付を入力します（日付タイプフィールド）。
- **[分類]** フィールド：カタログのリファレンスを分類するために使用する分類タイプを入力します。
- **[資産タグ]** フィールド：カタログのAssetCenter資産タグを入力します。
- **[外部ソース]** オプション：カタログが外部データソース（FTP、CD-ROMなど）に由来する場合は、このオプションを選択します。
- **[URL]** フィールド：カタログのURLアドレスを入力します。
- **[契約]** フィールド：カタログに関連付けられている契約を入力します。
- **[責任者]** フィールド：カタログの責任者を入力します。
- **[連絡先]** フィールド：カタログに関連付けられている連絡先を入力します。
- **[場所]** フィールド：カタログに関連する場所を入力します。このフィールドは、自由にカスタマイズできます。
例えば、このフィールドではカタログの対象地域（アジア、北米、ヨーロッパ、世界中）を指定できます。
- **[コメント]** フィールド：カタログ関連のコメントを入力します。

[リファレンス] タブ

このタブページでは、カタログリファレンスが表示されます。

[取引先] タブ

このタブページでは、スクリプトを使って親会社の取引先会社を表示し、表示される取引先会社に対してカタログへのアクセス権限を与えるかどうかを指定します。

[サプライヤ] タブ

このタブページは、あるカタログのサプライヤを表示します。複数のサプライヤが登録されている場合、[デフォルトのサプライヤ] フィールドでデフォルトのサプライヤを指定できます（リストから選択、または仮作成）。

[カスタマイズ] タブ

このタブページでは、カタログリファレンスの詳細画面の [カスタマイズ] タブで指定された追加フォーマットデータが表示されます。

カタログリファレンスのリスト

この画面では、すべてのカタログに含まれているカタログリファレンスが表示されます。カタログリファレンスは、分類することができます。

カタログリファレンスのレコードは、以下のタブページから構成されています。

- 全般
- カスタマイズ
- 履歴
- 書類

選択または作成するカタログリファレンスは、以下の必須フィールドを含んでいます。

- [**カタログ**] フィールド：カタログリファレンスは、このフィールドで指定されるカタログに属します。
- [**参照番号**] フィールド：カタログリファレンスの参照番号を入力します。

[全般] タブページ

このタブページでは、カタログリファレンスの主要情報を入力します。

- [**製品**] フィールド：カタログリファレンスに関連付けられている製品（単品製品またはパッケージ）を入力します。
- [**説明**] フィールド：カタログリファレンスの内容を入力します。このフィールドは自由に編集できます。
- [**分類コード**] フィールド：カタログリファレンスに関連付けられている分類コードを入力します。分類コードを使うと、ある分類システム内でリファレンスをさらに分類できます。以下のシンタックスに従う必要があります。

分類, 番号

例

UNSPSC, 01234567

- **[有効期間の開始日]** フィールド：カタログの有効期間の開始日を入力します。
- **[有効期間の終了日]** フィールド：カタログの有効期間の終了日を入力します。
- **[価格]** フィールド：製品の価格を入力します。
- **[更新日]** フィールド：カタログリファレンスの更新日を入力します。
- **[割引]** フィールド：リファレンスの割引率を入力します。
- **[最低発注量]** フィールド：最低発注量を指定します。
- **[在庫数]** フィールド：在庫数を入力します。
- **[承認]** フィールド：カタログを管理するユーザが入力するリストデータです。このフィールドでは、カタログに適用する承認レベルを指定します。
- **[納期]** フィールド
- **[コメント]** フィールド：カタログリファレンス関連のコメントを入力します。

[カスタマイズ] タブ

このタブページでは、カタログリファレンスの価格計算に関するカスタマイズ情報がまとめられています。

カスタマイズ情報とは、主に追加フォーマットデータに関連付けられた計算スクリプトのことを指します。

- **[スクリプト(価格)]** フィールドは、カタログリファレンスの価格を計算するスクリプトへのリンクです。
- **[スクリプト(リファレンス)]** フィールドは、カタログリファレンスの計算スクリプトへのリンクです。
- **[追加フォーマットデータ]** フィールドは、上記の2つのスクリプトにより使用されるデータを含みます。

注意:

上記の計算スクリプトは、調達サイクルで使用されます。計算スクリプトが指定されていない場合は、**[全般]** タブページの **[価格]** フィールドと **[割引]** フィールドの値が使用されます。

カタログ製品のリスト

この画面では、カタログの様々な製品が階層構造で表示されます。製品のレコードでは、以下の情報がまとめられています。

- **【説明】**フィールド：製品の説明を入力します。
 - **【メーカー】**フィールド：製品に関連付けられているメーカー名を入力します。
- カタログ製品の画面は、以下のタブページから構成されています。

- 全般
- 明細
- リファレンス
- 取得
- 写真
- 履歴
- 書類

[全般] タブページ

このタブページでは、製品に関連する以下の主要情報を入力します。

- ID情報
- オプション
- **【ブレインストール済】**チェックボックス：製品が親製品に関連付けられている場合のみに表示されます。

ID情報

- **【モデル】**フィールド：製品に関連付けられているモデル。**【メーカー】**フィールドの値に応じて、このフィールドに表示される値は異なります。
- **【カテゴリ】**フィールド：製品の階層構造を示します（例：属性 / モデル / 従属モデル / 製品）。このフィールドは自動的に入力されます。
- **【親レコード】**フィールド：選択された製品の親製品を示します。

オプション

このフレームでは、製品がオプションであるかどうかを指定します。選択された製品が別の製品のコンポーネント（従属製品）である場合のみに、このフレームは表示されます。

- **【オプション】**チェックボックス：オンにすると、選択された製品がオプションであることを指定します。
- **【デフォルトのオプション】**チェックボックス：選択された製品がデフォルトのオプションであることを指定します。
- **【オプショングループ】**フィールド：選択されたオプションが属するオプショングループを指定します。

あるオプショングループで選択できるデフォルトのオプションの数は1つに限られています。

[構成] タブ

このタブページでは、選択された製品に関連付けられている製品が表示されません。

[リファレンス] タブ

このタブページでは、選択された製品のカタログリファレンスが表示されます。

[取得] タブ

このタブページでは、製品の取得方法に関連する以下の情報が表示されます。

- **[価格]** フィールド：製品の定価を指定します。
- **[購入単位]** フィールド：製品の購入時に使用する単位です。例えば、セメントを購入する場合、「トン」または「キログラム」を単位として使用します。

注意:

単位の詳細については、マニュアル『ポートフォリオ』の「単位」の節を参照してください。

- **[パッケージング]** フィールド：製品のパッケージングを指定するためのリストデータです。
- **[承認]**：選択された製品の承認レベルを指定するためのリストです。
- **[承認日]** フィールドと **[承認の終了日]** フィールド
- **[変換係数]** フィールド：製品を資産に転換する場合に使用する変換係数を指定します。
例えば、購入時には「トン」を単位として使用し、ポートフォリオ管理では、「キログラム」を使用します。
- **[印刷する]** オプション：このオプションをオンにすると、選択された製品が発注書に印刷されます。

[パッケージ] フレーム

このフレームでは、パッケージの条件を指定します（例：2個入りのロット、3本入りのロットなど）。

- **[数量]** フィールド：パッケージに含まれている品数を指定します。
例：2個単位でパッケージ売りされる製品
- **[内容量]** フィールド：パッケージを構成する単品の内容量を指定します。
例：内容量が0.75リットルのボトル

[保証] フレーム

このフレームでは、製品の保証に関する以下の情報を指定します。

- [保障期間]
- [条件]
- [連絡先]

カタログ、カタログリファレンス、製品の論理リンク

会社のカタログ

サプライヤの詳細画面の [カタログ] タブページでは、以下のカタログが表示されます。

- 会社が配布するカタログ
カタログの詳細画面の [サプライヤ] タブページにこの会社名が入力されている場合
- 会社が発注時に使用するカタログ
カタログの詳細画面の [取引先] タブページにこの会社名が入力されている場合

モデル

[カタログ情報] タブページでは、選択されたモデルにデフォルトで関連付けられているカタログリファレンスが表示されます。

- 選択されたモデルに関連付けられているカタログリファレンス
- モデルに関連付けられている製品

購入依頼

購入依頼の明細は、モデルまたはカタログリファレンスを使って入力されます。購入依頼の [リファレンス] フィールドで、カタログリファレンスを指定します。

発注

発注の明細は、カタログリファレンスを使って入力されます。購入依頼の【リファレンス】フィールドで、カタログリファレンスを指定します。

受領 / 返却

受領明細または返却明細の詳細は、カタログリファレンスを使って入力されま
す。

5 | 用語解説（カタログ）

本章では、カタログ管理で使用される主要用語を説明します。

 注意:

下記の用語は、あいうえお順に記載されてはいません。

製品

製品とは、企業の外部に存在するオブジェクトです。1つの製品は、企業の様々なサプライヤのカタログで、1つまたは複数のカタログリファレンスに対応します。例えば、製品「HP VECTRA VL 800」はカタログ「Micro」のカタログリファレンス1つ、および「Direct」のカタログリファレンス1つ、などに対応します。1つの製品は1つの品物（CPU1台）に対応する場合もあれば、複数の品物のセット（コンピュータのセット商品）に対応する場合があります。

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

[製品]（SQL名：amProduct）テーブル

コンポーネント

コンポーネントとは、ある親製品に関連付けられている製品のことを指します。例えば、オプティカルマウスは、製品「OptiPlex GX 110」のコンポーネントです。

購入単位

購入単位とは、特定の製品の販売で、サプライヤが使用する単位のことを指します。例えば、あるサプライヤは「トン」単位で砂を販売します。

パッケージ

パッケージとは、複数の製品をまとめて売る販売方法を指します。例えば、インクカートリッジは50個入りのパッケージで販売されます。

変換係数

変換係数とは、購入単位をモデルで使用する単位に変換するための係数を指します。例えば、砂を「トン」単位で購入した場合、これをデータベースで管理する時、「50キログラム入りの袋」という単位で管理できます。

追加フォーマットデータ

追加フォーマットデータは、価格またはカタログリファレンスを計算するために使用されます（「追加スペック」の指定を参照）。

追加スペックの指定

複数の変数に応じて依頼を定義する方法を指します。例えば、ケーブル1本を購入するよう依頼する際、ケーブルの長さや直径を使って依頼を定義します。

オプション

オプションは、親製品に関連付けられている製品で、これから切り離すことはできません。例：車のメタリック塗装

オプショングループ

オプショングループは、共通する特徴を持つ異なるオプションの集まりです。例えば、オプショングループ「CD」は、CDドライブ、CD-ROMドライブ、CDRドライブ、DVDドライブ、DVDRドライブなどのオプションの集まりです。

構成

ある親製品1つに複数の製品が関連付けられます。例えば、親製品「CPU」にマウス、キーボード、CDドライブを関連付けることができます。

カタログリファレンス

カタログリファレンスは、製品とカタログを関連付けます。製品をカタログを関連付けると、リファレンスが作成され、価格が指定されます。

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

[カタログリファレンス] (SQL名 : amCatRef)

メーカー品番

メーカー品番とは、製品のメーカーがある製品に割り当てる識別用の番号を指します。

内部参照番号

内部参照番号とは、AssetCenterのカウンタが製品に割り当てる識別用の番号を指します。

承認

承認とは、会社が製品に対して与える承認のことを指します。

分類

市場の製品を分類するために、あるカタログに関連付けられた分類規格のことを指します。

分類コード

分類コードとは、カタログに適用する分類規格に応じてカタログリファレンスに割り当てられるコードを指します。

6 | 参考情報（カタログ）

メニューとタブページ（カタログ）

以下のメニュー、タブ、リンク、およびフィールドを使うと、カタログモジュールのデータにアクセスできます。

表 6.1. メニューとタブページ（カタログ） - 一覧

サブメニュー	アクセスするテーブル（テーブル名とSQL名）	専用のタブ、フィールドまたはリンク	関連するマニュアルの章
[ファイル]メニュー			

サブメニュー	アクセスするテーブル (テーブル名と SQL名)	専用のタブ、フィールドまたはリンク	関連するマニュアルの章
モジュールの起動	カタログモジュールを起動/解除します (ライセンスで許可されている場合)。 注意: カタログモジュールは、調達モジュールにリンクしているため、表示されません。 以下のメニューが非表示の場合に、このメニューを使用します。	N/A	マニュアル『はじめに』の「ユーザのコンピュータで AssetCenter をカスタマイズする」の章、「モジュールを起動する」の節を参照してください。
[調達] メニュー			
カタログ	カタログ (amCatalog)	すべて	「カタログの作成 (シナリオ例)」の章、「カタログを作成する」の節
カタログリファレンス	カタログリファレンス (amCatRef)	すべて	「概要 (カタログ)」の章、「カタログリファレンス」の節
製品	製品 (amProduct)	すべて	「概要 (カタログ)」の章、「カタログ製品」の節
分類コード	分類コード (amProdClass)	すべて	「カタログの作成 (シナリオ例)」の章、「分類規格」の節
[ツール] メニュー			
アクション / 編集	アクション (amAction)	なし	マニュアル『はじめに』の「基本的な情報」の章、「アクション」の節を参照してください。

サブメニュー	アクセスするテーブル (テーブル名と SQL名)	専用のタブ、フィールドまたはリンク	関連するマニュアルの章
アクション / <アクションの名前>	コンテキストアクションまたはコンテキスト外アクションにアクセスできません。 選択されたアクションをトリガします。	N/A	「参考情報 (カタログ)」の章、「アクションとウィザード (カタログ)」の節
ツールバーのカスタマイズ	ツールバーのアイコンを表示 / 非表示にします。	なし	「参考情報 (カタログ)」の章、「ツールバーのアイコン (カタログ)」の節
レポート機能 / レポート	レポート (amReport)	なし	「参考情報 (カタログ)」の章、「レポートと書式 (カタログ)」の節
レポート機能 / 書式	内部用書式 (amForm)	なし	「参考情報 (カタログ)」の章、「レポートと書式 (カタログ)」の節
[管理]メニュー			
リストデータ	リストデータ (amItemizedList)	なし	「参考情報 (カタログ)」の章、「リストデータ (カタログ)」の節
カウンタ	カウンタ (amCounter)	なし	「参考情報 (カタログ)」の章、「カウンタ (カタログ)」の節
特殊フィールド	特殊フィールド (amCalcField)	なし	「参考情報 (カタログ)」の章、「特殊フィールド (カタログ)」の節
画面一覧	メニューからアクセスできないテーブルを表示します。 このようなテーブルは直接変更してはならないため、管理者のみが同メニューにアクセスできます。	なし	マニュアル『はじめに』の「レコードリスト」の章、「リストを使う」の節を参照してください。

ツールバーのアイコン（カタログ）

ツールバーに表示されるアイコンの中には、カタログモジュールに固有のものがいくつかあります。

アイコンのリストを表示して、ツールバーに追加するには、次の手順に従います。

- 1 [ツール/ツールバーのカスタマイズ]メニューを選択します。
- 2 [ツール]タブを選択します。
- 3 [カテゴリ]リストで[カタログ]を選択します。

ツールバーのカスタマイズに関する詳細は、マニュアル『はじめに』の「ユーザのコンピュータでAssetCenterをカスタマイズする」の章、「ツールバーをカスタマイズする」の節を参照してください。

インタフェースのオプション（カタログ）

カタログモジュールに固有のインタフェースのオプションはありません。

テーブル（カタログ）

カタログモジュールでは、多数のテーブルを使用します。

カタログモジュールで使用するテーブルの一覧は以下のとおりです。

表 6.2. テーブル（カタログ） - 一覧

テーブル名	テーブルのSQL名	テーブルにアクセスするためのメニュー	関連するマニュアルの章
カタログモジュールに直接関連するテーブル			
カタログ	amCatalog	調達	「カタログの作成（シナリオ例）」の章、「カタログを作成する」の節
カタログリファレンス	amCatRef	調達	「概要（カタログ）」の章、「カタログリファレンス」の節

テーブル名	テーブルのSQL名	テーブルにアクセスするためのメニュー	関連するマニュアルの章
製品	amCatProduct	調達	「概要（カタログ）」の章、「カタログ製品」の節
分類コード	amProdClassCode	調達	「カタログの作成（シナリオ例）」の章、「分類規格」の節
カタログモジュールに間接的に関連するテーブル			
単位	amUnit	管理	「概要（カタログ）」の章、「カタログ製品」の節
モデル	amModel	ポートフォリオ	「概要（カタログ）」の章、「概要（カタログ）」の節
サプライヤ	amCompany	ポートフォリオ	「カタログの作成（シナリオ例）」の章、「発注ウィザードでカタログを使用する」の節

テーブル間の依存関係（カタログ）

カタログモジュールでは、AssetCenterデータベースの数多くのテーブルを使用します。これらのテーブル間には多数のリンクが存在します。従って、テーブルの入力順を最適化することをお勧めします。

以下で記述する入力順に必ずしも従う必要はありません。AssetCenterでは、リンクするテーブルで欠けているレコードを必要に応じて作成することができます。

ヒント:

まず製品を作成してから、カタログとカタログリファレンスを作成するようお勧めします。

以下の表で、リンクされているテーブルの一覧とレコードの能率的な入力順を示します。

またカタログモジュールに直接関連する補助テーブルは除外されています。主要テーブルにレコードが作成されると、これらのテーブルにも自動的に値が入力されます。

表 6.3. テーブル間の依存関係 (カタログ) - 一覧

テーブル (テーブル名とSQL名)	前もって入力する必要のあるテーブル (テーブル名とSQL名)
製品 (amProduct)	<ul style="list-style-type: none"> モデル (amModel) 属性 (amNature) 単位 (amUnit)
カタログ (amCatalog)	<ul style="list-style-type: none"> 会社 (amCompany) 分類 (amProdClass)
カタログリファレンス (amCatRef)	分類コード (amProdClassCode)

リストデータ (カタログ)

フィールドに値を入力する際に、リストデータ (オープン/クローズド) を使って値を選択する場合があります

[管理/リストデータ] メニューを選択して [リストデータ] (SQL名: amItemizedList) テーブルを表示します。

カタログモジュールに固有のリストデータは、以下のとおりです。

表 6.4. リストデータ (カタログ) - 一覧

リストデータの識別子	リストデータを使って入力するフィールド (フィールド名とSQL名)	フィールドが属するテーブル (テーブル名とSQL名)
amCertification	承認 (amCertification)	製品 (amCatProduct)
	承認 (amCertification)	カタログリファレンス (amCatRef)
amProdClass	分類 (amProdClass)	カタログ (amCatalog)
	分類 (amProdClass)	分類コード (amProdClass)
amPackaging	パッケージング (Packaging)	製品 (amCatProduct)
amWarrCond	条件 (WarrCond)	製品 (amCatProduct)

リストデータの詳細に関しては、マニュアル『AssetCenterの高度な使い方』の「リストデータ」の章を参照してください。

特殊フィールド（カタログ）

カタログモジュールでは、特定の特殊フィールドを使用します。

これらの特殊フィールドは、特定のフィールドのデフォルト値で使用されています。

[管理/特殊フィールド]メニューを選択して、[特殊フィールド]（SQL名：amCalcField）テーブルを表示します。

カタログモジュールに固有の特殊フィールドは、以下のとおりです。

表 6.5. 特殊フィールド（カタログ）- 一覧

特殊フィールドの名前	特殊フィールドのSQL名	特殊フィールドの適用先テーブル（テーブル名とSQL名）	使用
ProductUnit	sysCoreProductUnit	amProduct	このフィールドは、使用単位、および特定のカタログリファレンスの製品で使用するパッケージ条件を表示します。

上記の特殊フィールドは、カスタマイズ可能です。

特殊フィールドの詳細に関しては、マニュアル『AssetCenterの高度な使い方』の「特殊フィールド」の章を参照してください。

スクリプトの詳細に関しては、マニュアル『AssetCenterの高度な使い方』の「スクリプト」の章を参照してください。

APIの使用に関する情報は、マニュアル『プログラマーズリファレンス』を参照してください。

カウンタ（カタログ）

カタログモジュールでは、以下のカウンタを使用します。

カウンタは、特定のフィールドのデフォルト値で使用されています。

[管理/カウンタ]メニューを選択して[カウンタ]（SQL名：amCounter）テーブルを表示します。

カタログモジュールに固有のカウンタは、以下のとおりです。

表 6.6. カウンタ (カタログ) - 一覧

カウンタのSQL名	カウンタを使用するテーブル (テーブル名とSQL名)	カウンタを使用するフィールド (フィールド名とSQL名)
amCatalog_Code	カタログ (amCatalog)	コード (Code)
amProdReserv_ItemNo	予約 (Reservation)	番号 (ItemNo)

カウンタの詳細については、マニュアル『データベース管理』の「データベースの標準記述ファイル」の章、「データベースのカスタマイズ」の節、「フィールドのデフォルト値のカウンタ」を参照してください。

アクションとウィザード (カタログ)

カタログモジュールでは、アクションを特に使用することはありません。

[ツール / アクション / 編集] メニューを選択して [アクション] (SQL名: amAction) テーブルを表示します。

アクションの詳細に関しては、マニュアル『AssetCenterの高度な使い方』の「アクション」の章を参照してください。

スクリプトの詳細に関しては、マニュアル『AssetCenterの高度な使い方』の「スクリプト」の章を参照してください。

APIの使用に関する情報は、マニュアル『プログラマーズリファレンス』を参照してください。

AssetCenter Serverモジュール (カタログ)

カタログモジュールに関連するAssetCenter Serverモジュールはありません。

AssetCenter Serverの詳細については、マニュアル『データベース管理』の「AssetCenter Server」の章、「AssetCenter Serverでモニタするモジュールを設定する」の節を参照してください。

システムデータと分野別データ（カタログ）

AssetCenterは、以下の標準データパッケージと共に提供されています。
これらのデータパッケージは、以下のグループに分類できます。

- **システムデータ**：AssetCenterの使用に不可欠なデータ
- **専門分野データ**：必要に応じて、実際のデータベースに挿入するデータ
このデータは、機能別に分類されています。
- **サンプルデータ**：AssetCenterの使用に慣れるために便利なデータ

カタログモジュールに関連するシステムデータ

システムデータは、カタログモジュールに関連する以下のテーブルのデータを含んでいます。

- **【特殊フィールド】**（SQL名：amCalcField）テーブル
- **【通貨】**（SQL名：amCurrency）テーブル
- **【為替レート】**（SQL名：amCurRate）テーブル

カタログモジュールに関連する**システムデータ**は、AssetCenterと共にインストールされるデモ用データベースに自動的に含まれます。

カタログモジュールに関連する**システムデータ**を実際のデータベースでも使用するには、AssetCenter Database Administratorでこれを指定する必要があります。

カタログモジュールに関連する分野別データ

分野別データは、カタログモジュール用の**【レポート】**（SQL名：amReport）テーブルのデータを含んでいます。

カタログモジュールに関連する**分野別データ**は、AssetCenterと共にインストールされるデモ用データベースに自動的に含まれます。

カタログモジュールに関連する**分野別データ**を実際のデータベースでも使用するには、AssetCenter Database Administratorでこれを指定する必要があります。

レポートと書式（カタログ）

AssetCenterは、カタログモジュールの書式とレポートと共に提供されています。
この中には、カタログモジュール専用のものがいくつかあります。

レポートと書式をデータベースで使用するには、AssetCenter Database Administratorを使ってインポートを行う必要があります。

カタログモジュール専用のレポートをインポートおよび識別する

レポートのインポートについては、マニュアル『AssetCenterの高度な使い方』の「Crystal Reports」の章、「レポート作成プログラムの操作とインストール/既製のCrystal Reportsレポートを実際に使用するデータベースにインストールする」の節を参照してください。

カタログモジュール専用のレポートを見分ける方法については、マニュアル『AssetCenterの高度な使い方』の「Crystal Reports」の章、「モジュールに関連するCrystalレポートの識別」の節を参照してください。

カタログモジュール専用の書式をインポートおよび識別する

書式のインポートについては、マニュアル『AssetCenterの高度な使い方』の「書式」の章、「既製の書式を実際に使用するデータベースにインストールする」の節を参照してください。

カタログモジュール専用の書式を見分ける方法については、マニュアル『AssetCenterの高度な使い方』の「書式」の章、「モジュールに関連する書式の識別」を参照してください。

自動プロセス（カタログ）

AssetCenterがバックグラウンドで実行する自動プロセスに関する情報については、マニュアル『データベース構造』を参照してください。本マニュアルで記述されている各テーブルの章ごとに、「自動プロセス」という節があります。

マニュアル『データベース構造』のリファレンスに関しては、本マニュアルの「参考情報（カタログ）」の章、「その他のマニュアル（カタログ）」の節を参照してください。

API（カタログ）

カタログモジュールに関連するAssetCenter APIがいくつかあります。

これらのAPIは以下の機能を使用するために使われます。

- 発注明細にカタログリファレンスを追加する

カタログモジュールに関連するAPIの一覧および説明については、マニュアル『プログラマーズリファレンス』を参照してください。

ビュー（カタログ）

カタログモジュール用のデフォルトのビューはありません。

ビューの詳細に関しては、マニュアル『はじめに』の「ビューの使用方法」の章を参照してください。

その他のマニュアル（カタログ）

マニュアル『AssetCenter 4.1.0 - カタログ』は、カタログモジュールに直接関連する情報のみを記載しています。

本マニュアルに加えて、以下のマニュアルを参照することをお勧めします。

表 6.7. その他のマニュアル（カタログ） - 一覧

マニュアル名	内容	フォーマット	AssetCenterのインストール先フォルダにおけるパス
インストール	<ul style="list-style-type: none"> AssetCenterのインストール方法 	印刷版 オンライン	/doc/pdf/installbook*.pdf /doc/chm/installbook*.chm
主要テーブル	<ul style="list-style-type: none"> 場所の管理 従業員の管理 任意管理項目の管理 その他 	印刷版 オンライン	/doc/pdf/core*.pdf /doc/chm/core*.chm
はじめに	<ul style="list-style-type: none"> ソフトウェアのインタフェース 	印刷版 オンライン	/doc/pdf/intro*.pdf /doc/chm/intro*.chm
調達	調達サイクルとカタログ	印刷版 オンライン	/doc/chm/procur*.pdf /doc/chm/procur*.chm
データベース管理	<ul style="list-style-type: none"> データベースのカスタマイズ 	印刷版 オンライン	/doc/pdf/admin*.pdf /doc/chm/admin*.chm

マニュアル名	内容	フォーマット	AssetCenterのインストール先フォルダにおけるパス
AssetCenterの高度な使い方	<ul style="list-style-type: none"> ウィザードの使用 特殊フィールドの使用 リストデータの管理 スクリプトの作成 	印刷版	/doc/chm/advan*.pdf
		オンライン	/doc/chm/advan*.chm
フィールドおよびリンクに関する状況依存ヘルプ	<ul style="list-style-type: none"> データベースのフィールドおよびリンクの使用 	オンライン	<p>フィールドまたはリンクに関する状況依存ヘルプにアクセスするには、次の手順に従います。</p> <ol style="list-style-type: none"> フィールドまたはリンクを選択します。 以下の操作の1つを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> 右クリックして、[フィールドのヘルプ]メニューを選択します。 キーボードで [Shift + F1] キーを押します。 [ヘルプ/フィールドのヘルプ]メニューを選択します。
プログラマーズリファレンス	<ul style="list-style-type: none"> APIの使用 	印刷版	/doc/pdf/progref*.pdf
		オンライン	/doc/progref*.chm
データベース構造	<ul style="list-style-type: none"> データベースのテーブル、フィールド、リンク、インデックスの一覧 AssetCenterが自動的にトリガするエージェント 	テキストファイル	<ul style="list-style-type: none"> /infos/database.txt /infos/tables.txt
		印刷版	/doc/pdf/dbstruct*.pdf
		オンライン	/doc/chm/dbstruct*.chm

マニュアル名	内容	フォーマット	AssetCenterのインストール先フォルダにおけるパス
オンラインヘルプ	<ul style="list-style-type: none">アプリケーションの全機能	オンライン	オンラインヘルプにアクセスするには、以下の操作の1つを行います。 <ol style="list-style-type: none">1 キーボードで【F1】キーを押します。2 【ヘルプ/インデックス】メニューを選択します。

